

# 調査結果概要

# ワクチン接種に関する若年層へのオンライン調査（アンケート）方法

■ 調査方法：オンライン調査（アンケート）

■ 調査期間：令和3年8月6日（金）～令和3年8月16日（月）

■ 調査対象：埼玉県内に在住する若年層（18歳から39歳までの者） 1,760名

■ サンプルング対象：

18歳～19歳	男性	80人	女性	80人
20歳～24歳	男性	200人	女性	200人
25歳～29歳	男性	200人	女性	200人
30歳～34歳	男性	200人	女性	200人
35歳～39歳	男性	200人	女性	200人

■ 主な調査項目：

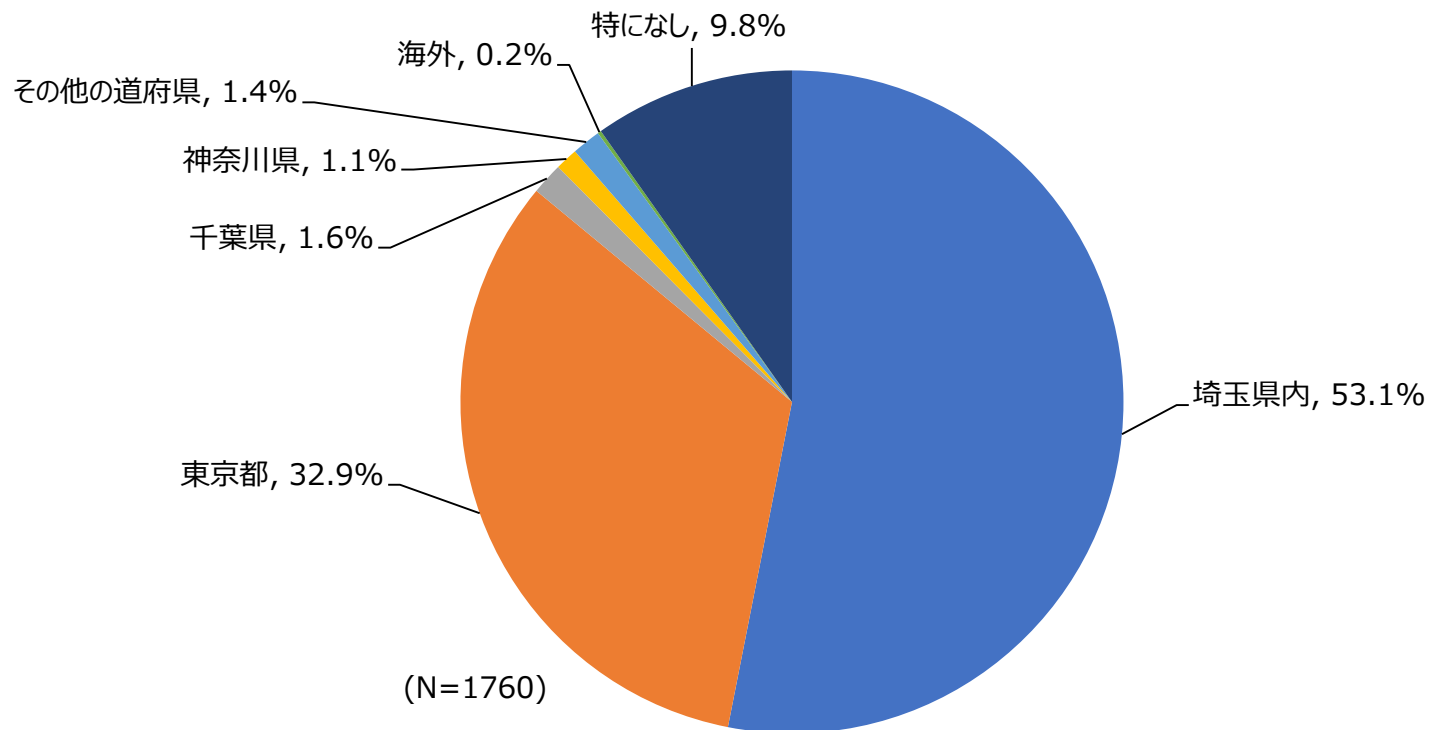
新型コロナウイルスに関すること

新型コロナウイルスワクチンの接種意向及びその理由

新型コロナウイルスワクチンの情報源

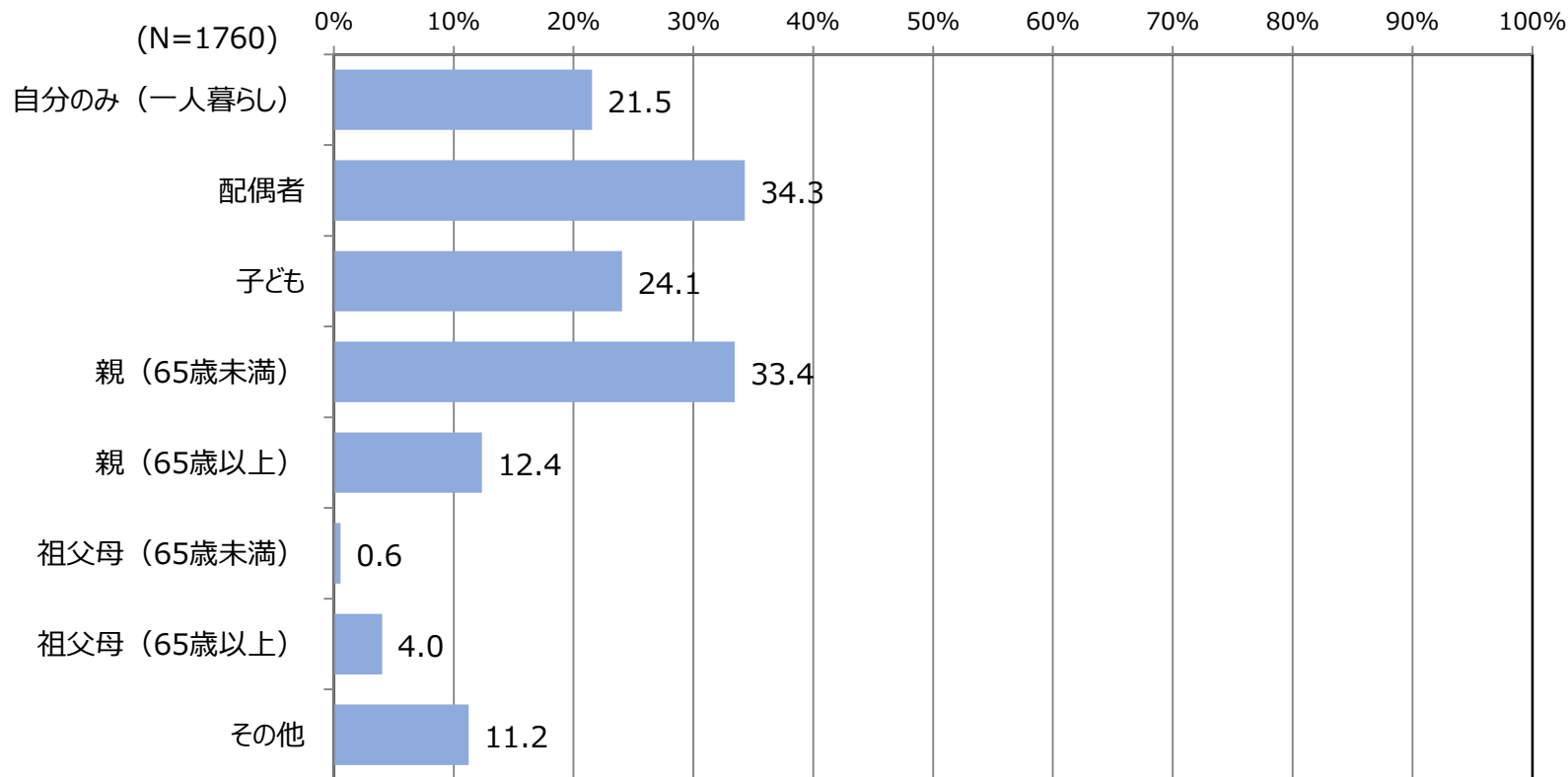
## Q1. 日常的に赴く勤務地、通学地等をお選びください。

- ・埼玉県内に通勤・通学している人の割合は、53.1%。
- ・1都3県（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）に通勤・通学している人の割合は88.7%を占める。



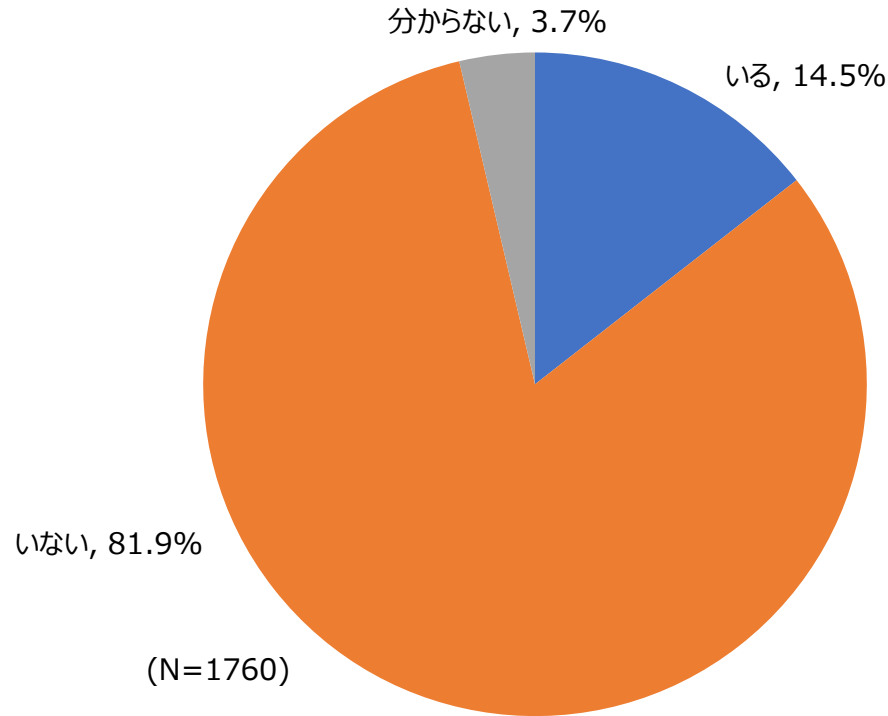
## Q2.同居している方についてお答えください（複数回答）。

・親や配偶者・子どもと同居する人が多い一方で、一人暮らしの人も一定数存在する。



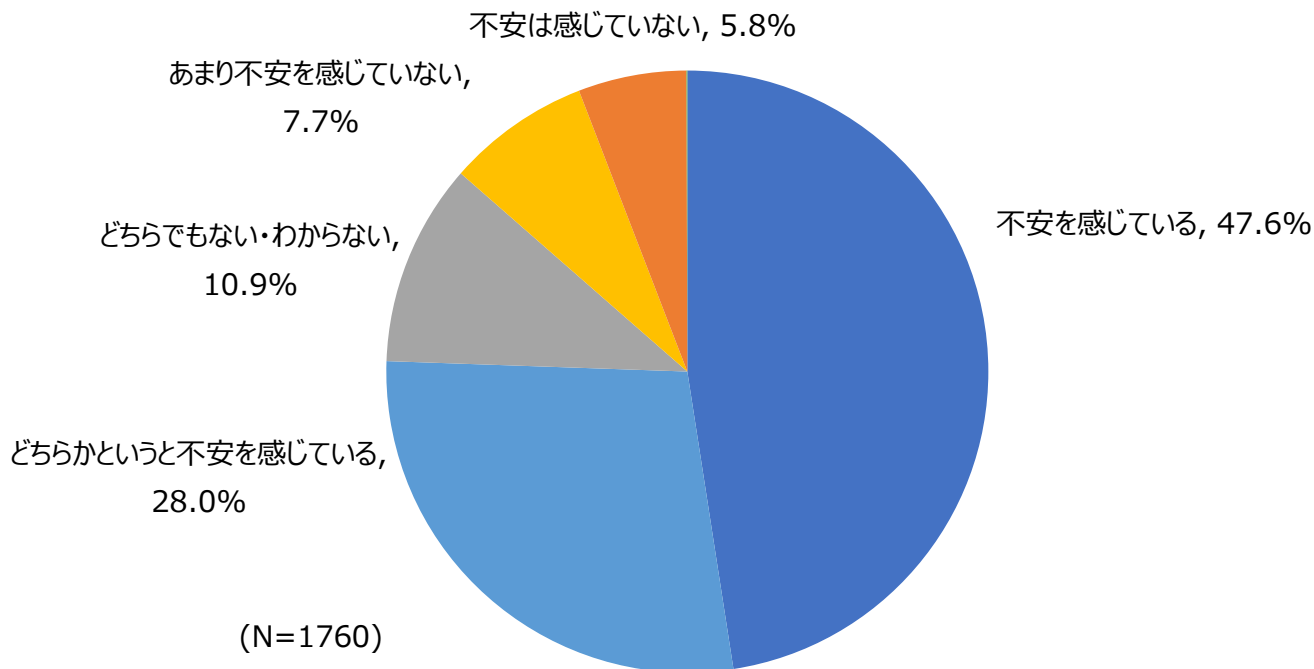
### Q3. あなたの身近（ご家族や友人、知人など）に、新型コロナウイルスに感染された方はいらっしゃいますか。

・身近に新型コロナウイルスに感染した人がいると答えた割合は14.5%で、いないと答えた割合が81.9%を占める。



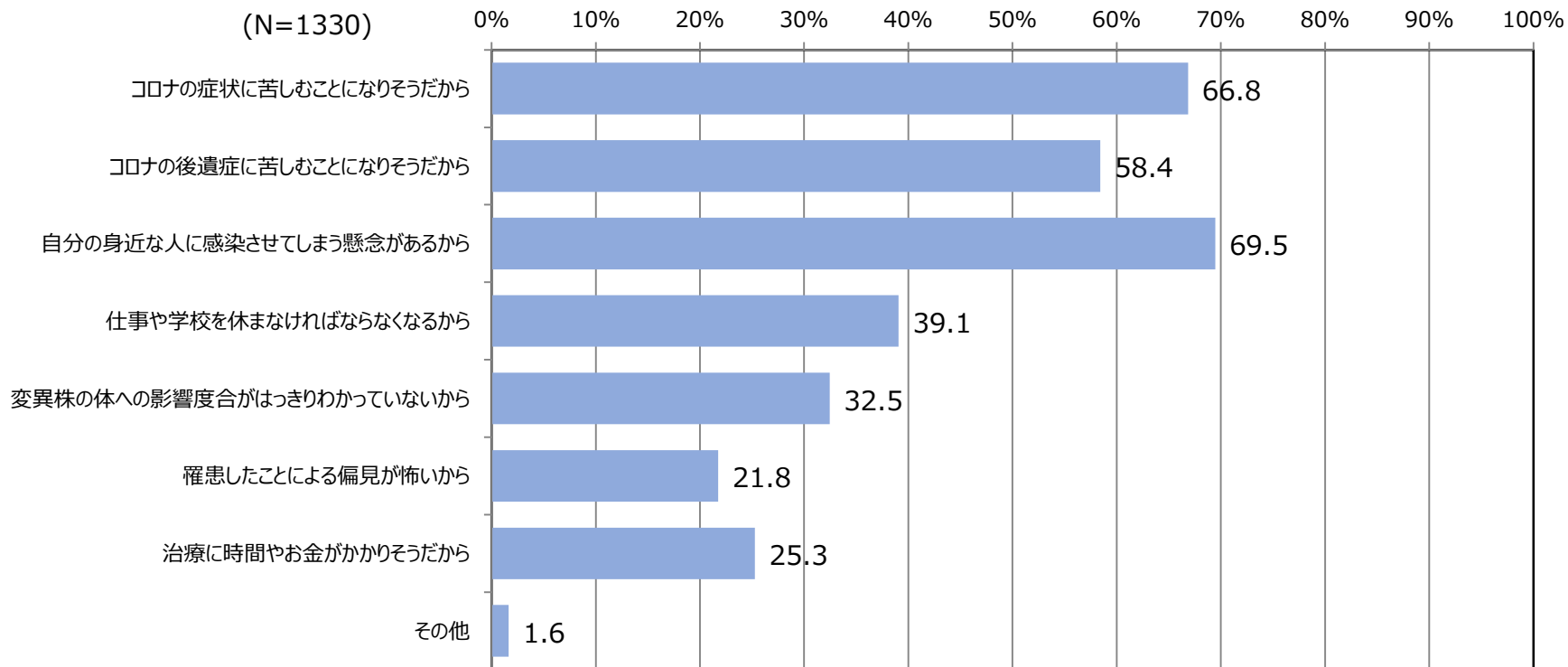
## Q4. あなた自身が新型コロナウイルスに感染することについてどのように感じていますか。

- ・新型コロナウイルスに感染することについて、75.6%の人が不安を感じている。
- ・その一方で、「どちらでもない・わからない」「あまり不安を感じていない」「不安は感じていない」の割合は24.4%である。



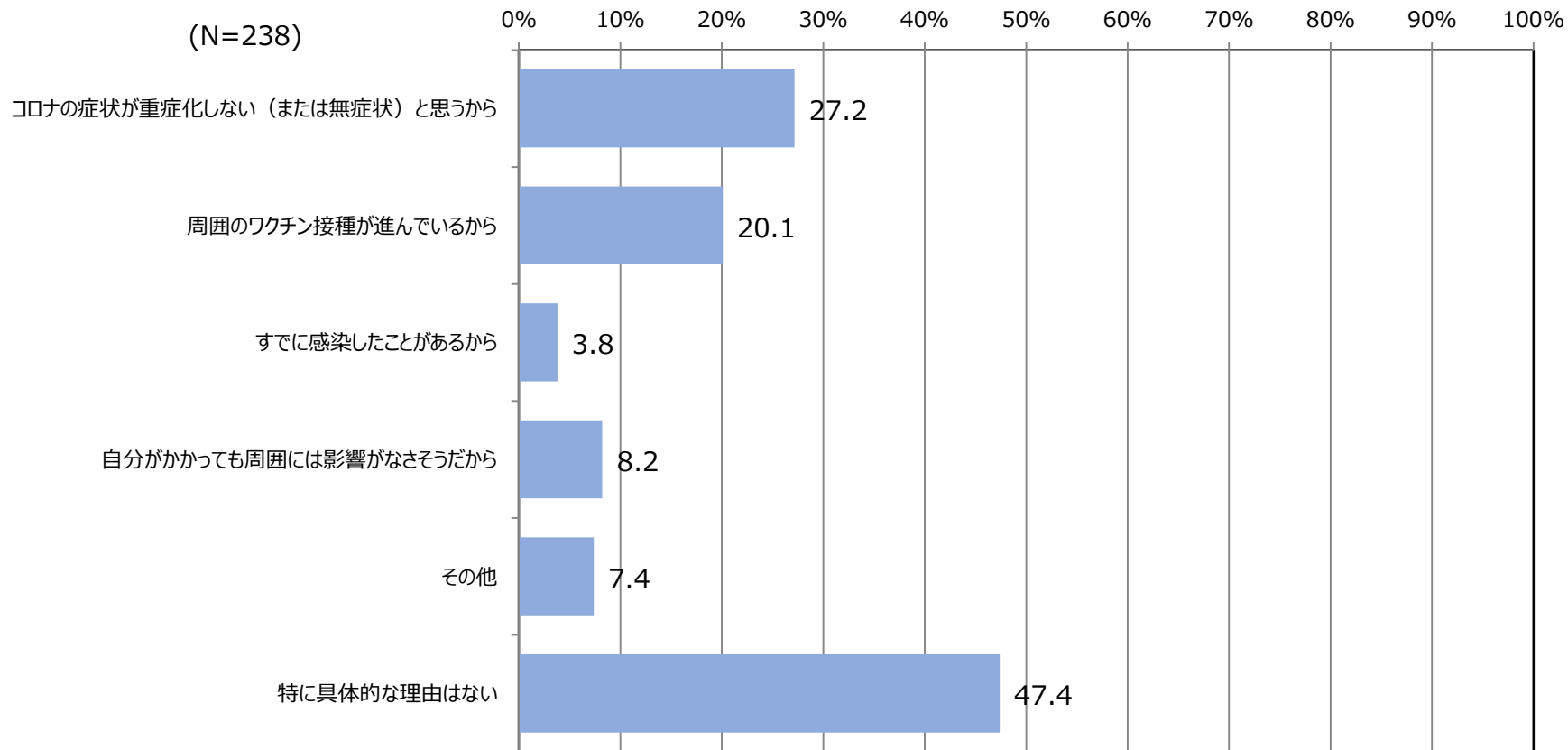
## Q5. 感染することに不安を感じている理由をお選びください（複数回答）。

・感染することに不安を感じている理由は、「自分の身近な人に感染させてしまう懸念があるから」が69.5%、「コロナの症状に苦しむことになりそうだから」が66.8%、「コロナの後遺症に苦しむことになりそうだから」が58.4%である。



## Q6. 感染することに不安を感じていない理由をお選びください（複数回答）。

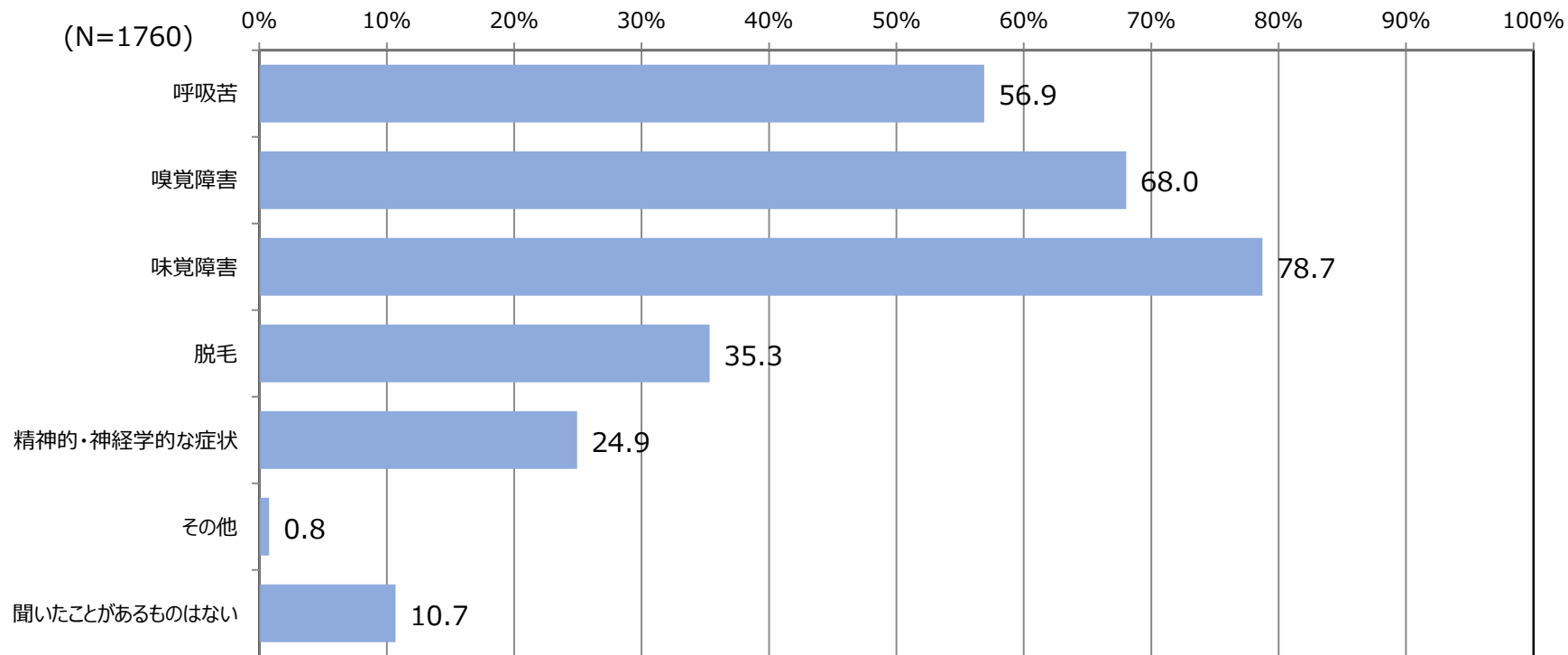
・感染することに不安を感じていない理由のうち、「特に具体的な理由はない」が47.4%である。





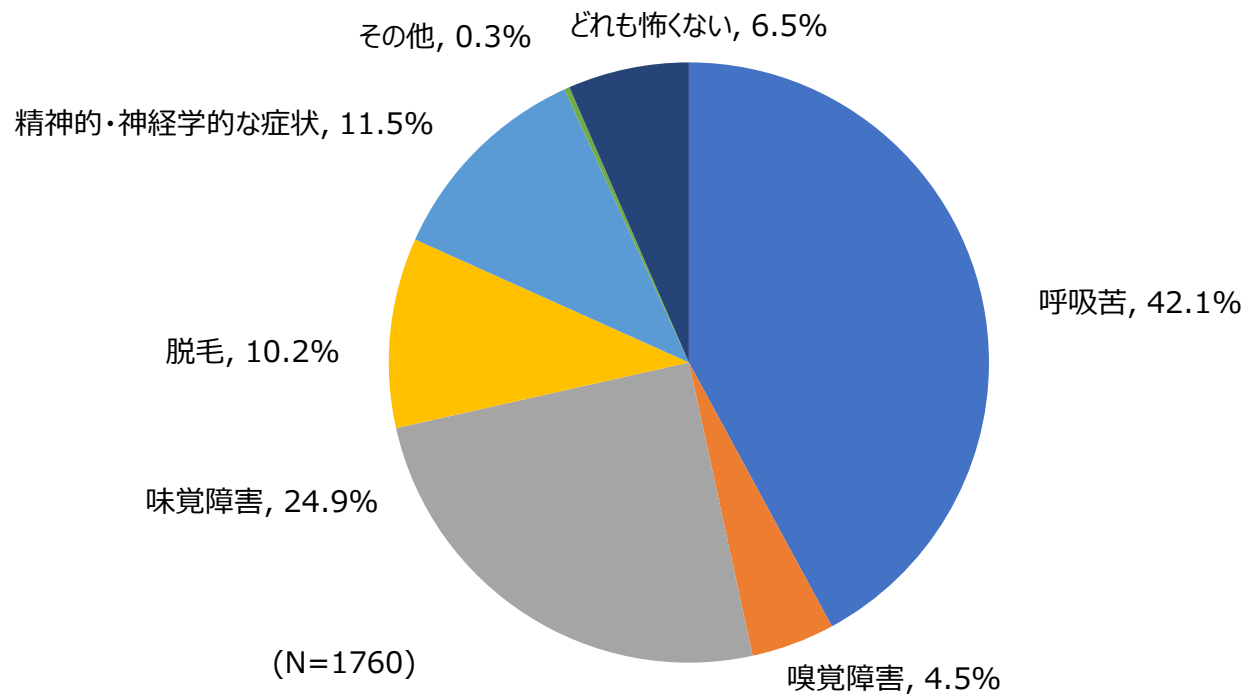
# Q 7. 次に挙げる新型コロナウイルス感染症の後遺症について、あなたが聞いたことがあるものをお選びください（複数回答）。

- ・聞いたことがある割合が最も高いのは「味覚障害」が78.7%、次いで「嗅覚障害」が68.0%、「呼吸苦」が56.9%である。
- ・「精神的・神経学的な症状」や「脱毛」を聞いたことがある割合は40%以下である。



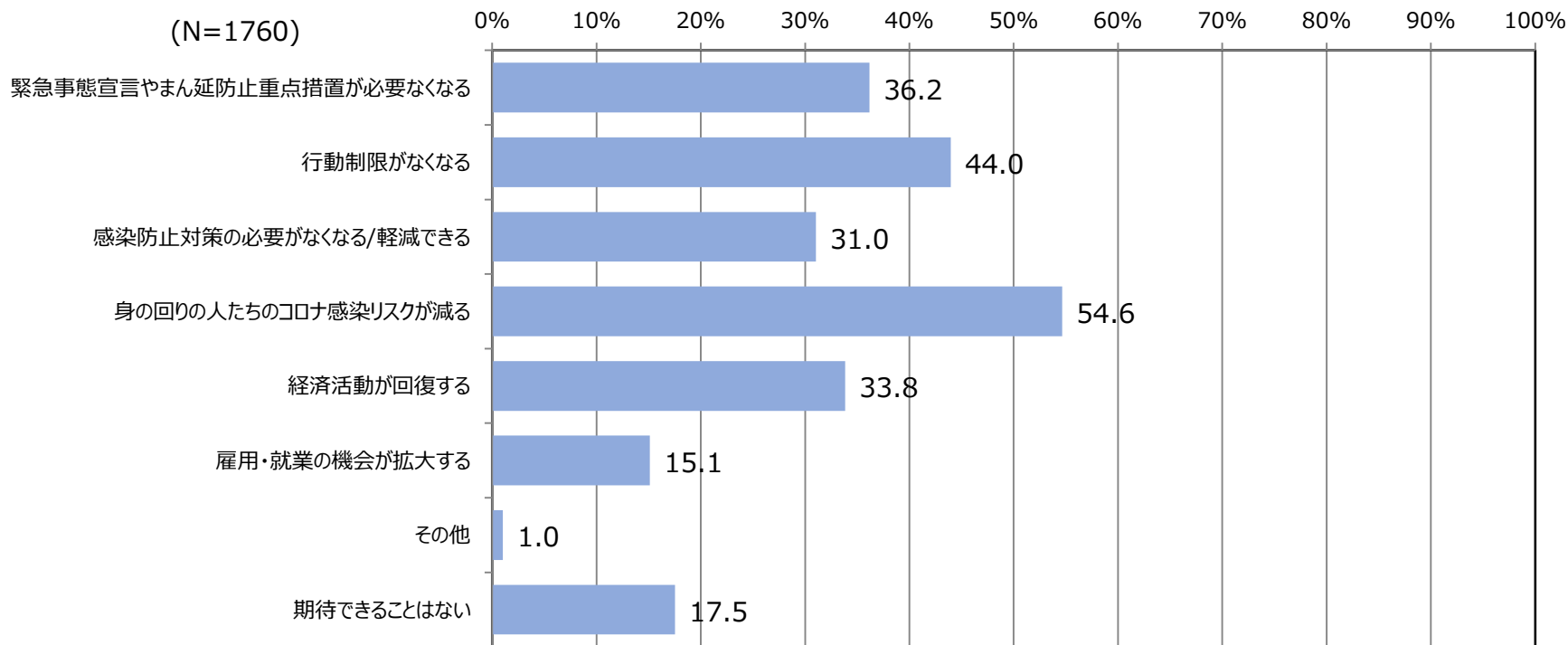
## Q8. あなたは、次に挙げる新型コロナウイルス感染症の後遺症のうち、どれが最も不安ですか。

- ・後遺症のうち最も不安なものは、「呼吸苦」が42.1%、「味覚障害」が24.9%である。
- ・「どれも怖くない」が6.5%存在する。



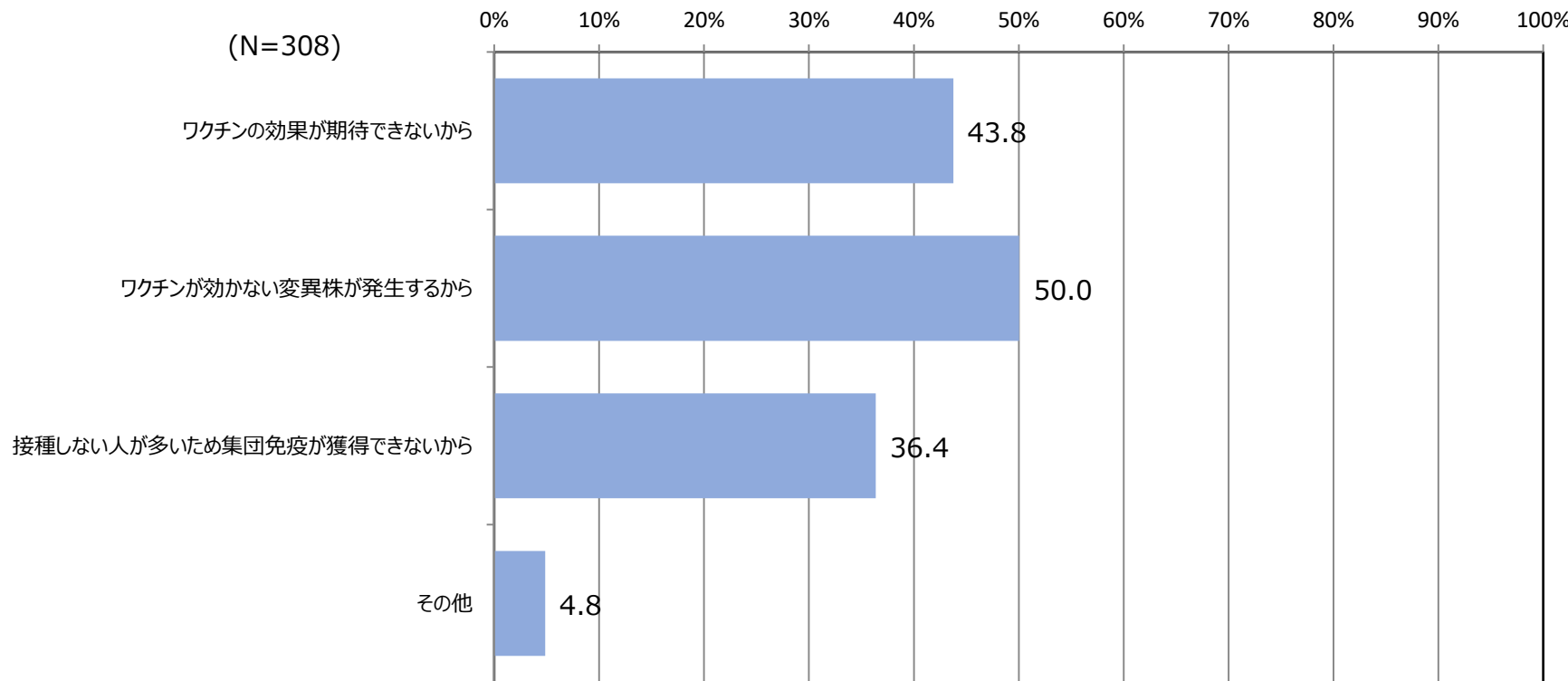
## Q9. ワクチン接種が進んでいくことで期待できると思うことをお選びください（複数回答）。

- ・ワクチン接種への期待について「身の回りの人たちのコロナ感染リスクが減る」が54.6%、「行動制限がなくなる」が44.0%である。
- ・「期待できることはない」と答えた割合は17.5%である。



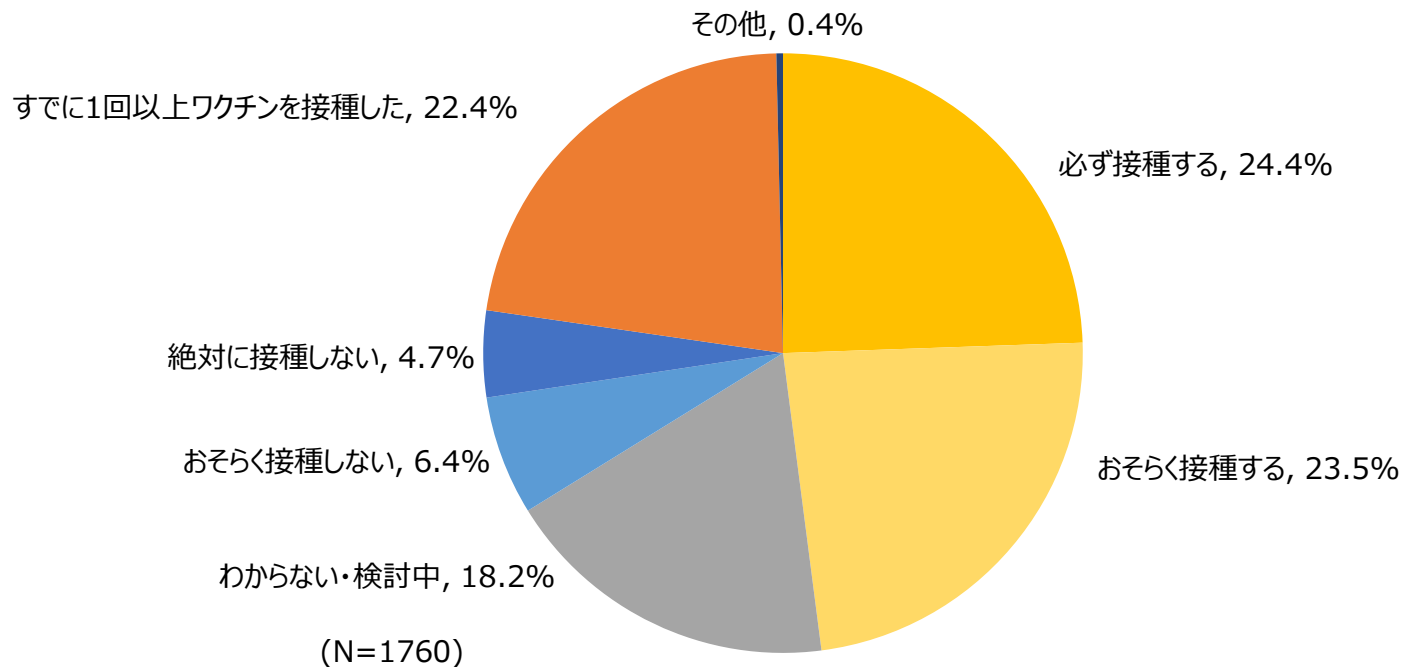
Q10. 前問で、ワクチン接種が進んでいくことで「期待できることはない」と回答した理由をお選びください（複数回答）。

・ワクチン接種に期待できない理由は、「ワクチンが効かない変異株が発生するから」が50.0%、「ワクチンの効果が期待できないから」が43.8%である。



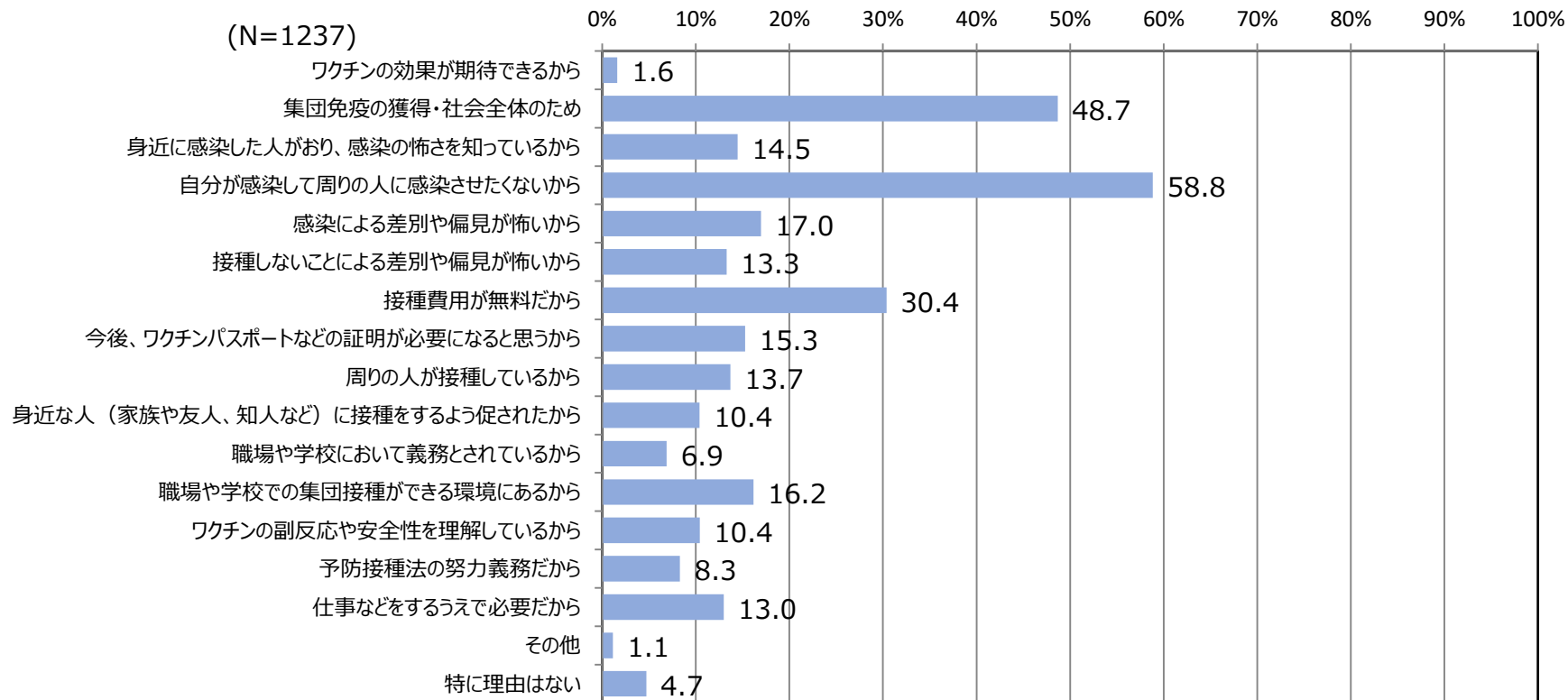
## Q11. あなたは新型コロナワクチンを接種します（しました）か。

- ・「必ず接種する」「おそらく接種する」「すでに1回以上ワクチンを接種した」と答えた割合は70.3%である。「わからない・検討中」と答えた割合は18.2%である。
- ・一方で、「絶対に接種しない」「おそらく接種しない」が11.1%である。



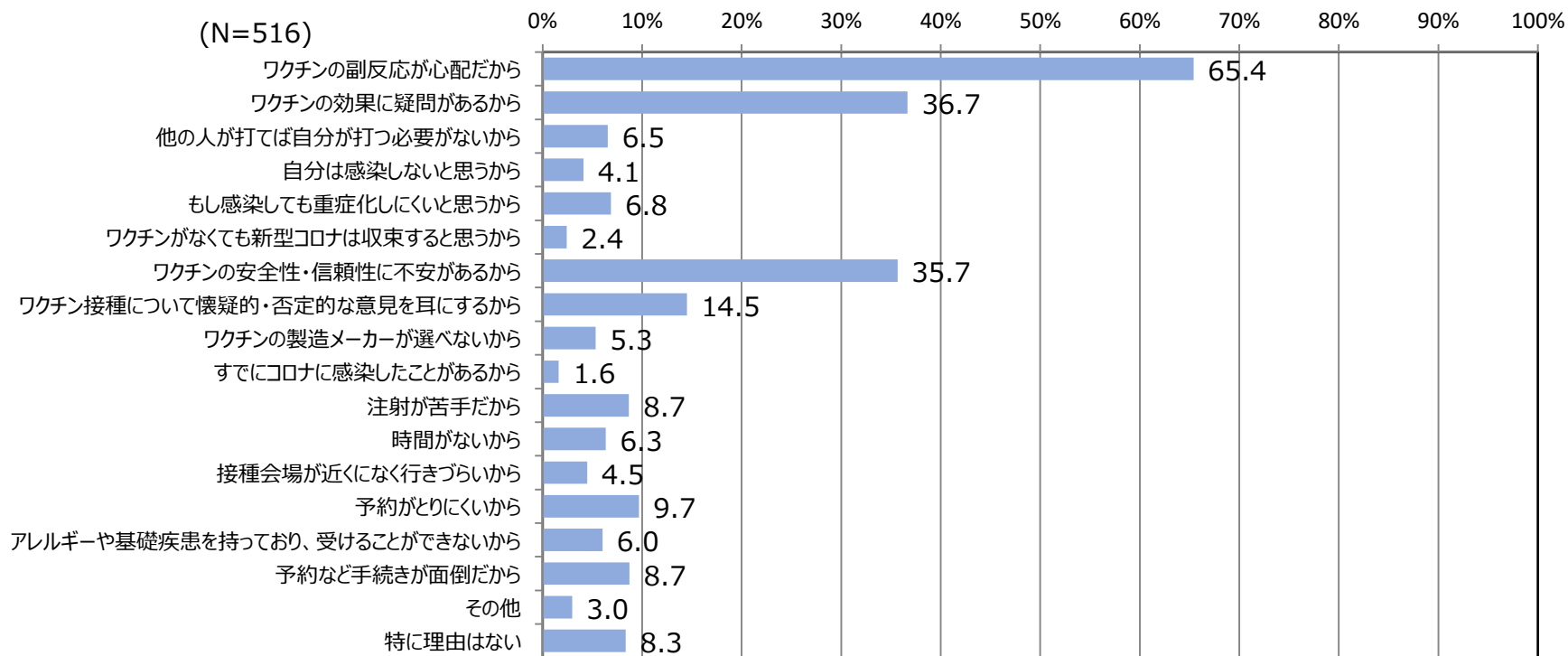
## Q12. ワクチンを接種する（接種した）理由をお選びください（複数回答）。

・ワクチンを接種する（接種した）理由は、「自分が感染して周りの人に感染させたくないから」が58.8%、「集団免疫の獲得・社会全体のため」が48.7%である。



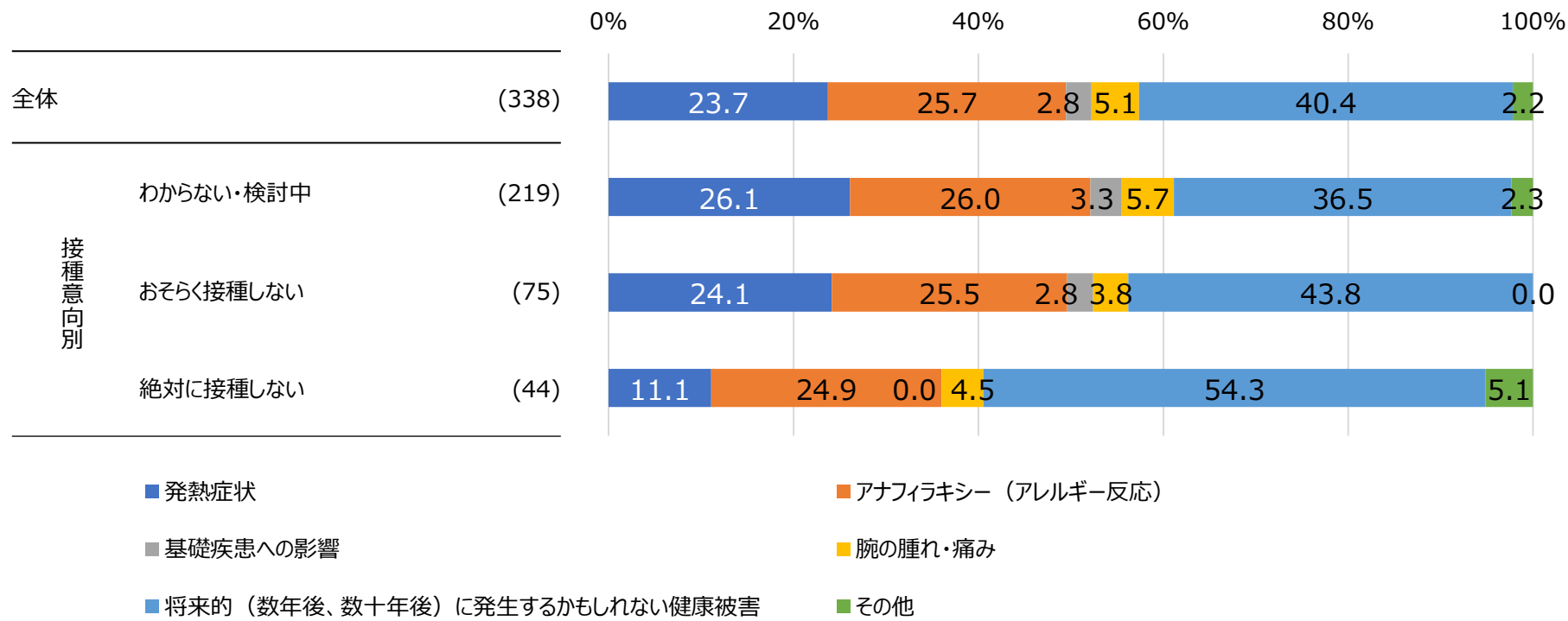
Q13. 新型コロナワクチン接種について、【わからない・検討中／おそらく接種しない／絶対に接種しない】と回答した理由をお選びください（複数回答）。

・「ワクチンの副反応が心配だから」が65.4%、「ワクチンの効果に疑問があるから」が36.7%、「ワクチンの安全性・信頼性に不安があるから」が35.7%である。  
・上記以外の理由は15%以下にとどまっている。



# Q14. ワクチンの副反応が心配とお答えの方に伺います。ワクチンの副反応のうち、どれが最も心配ですか。

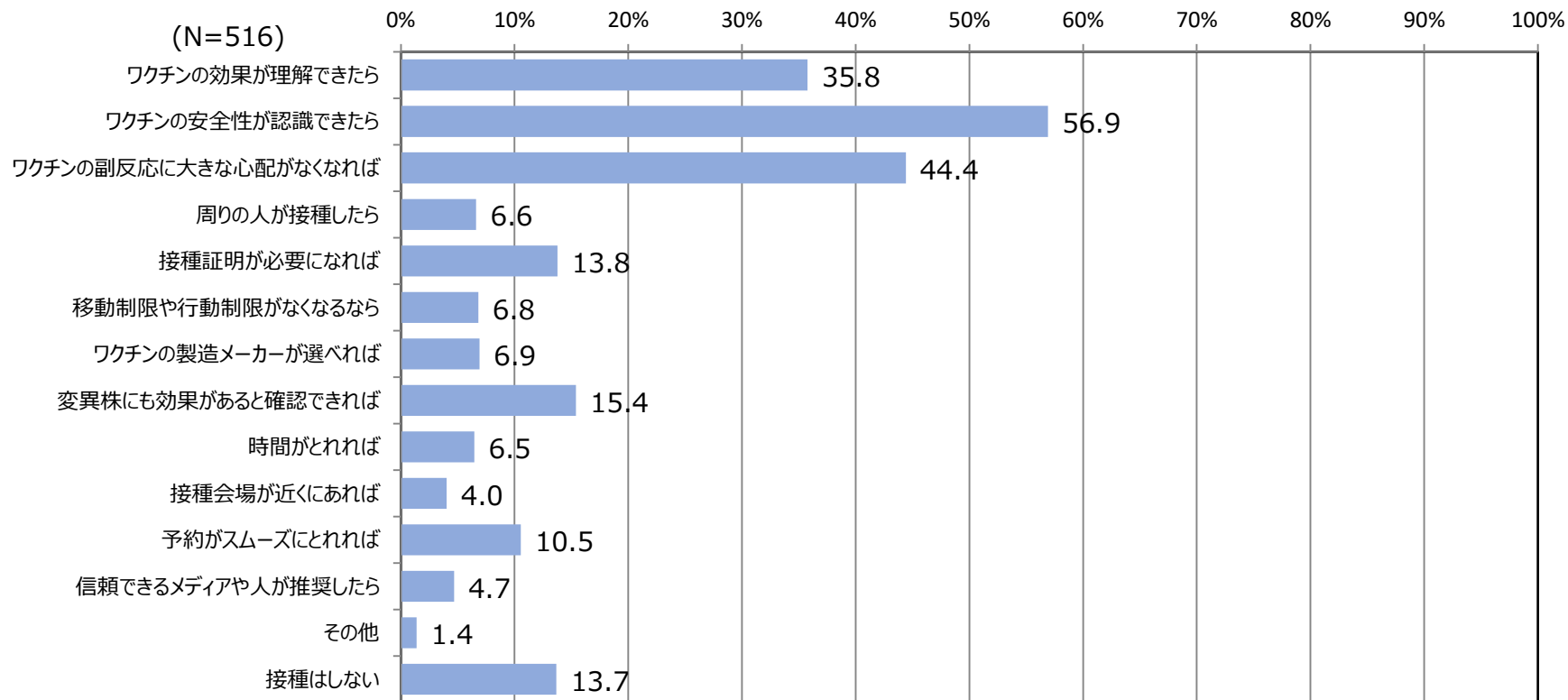
・副反応のなかでも「将来的に発生するかもしれない健康被害」が40.4%と最も高く、次いで、「アナフィラキシー」が25.7%、「発熱症状」が23.7%である。  
 ・絶対に接種しないと回答した人は、「将来的に発生するかもしれない健康被害」が高い傾向にある。





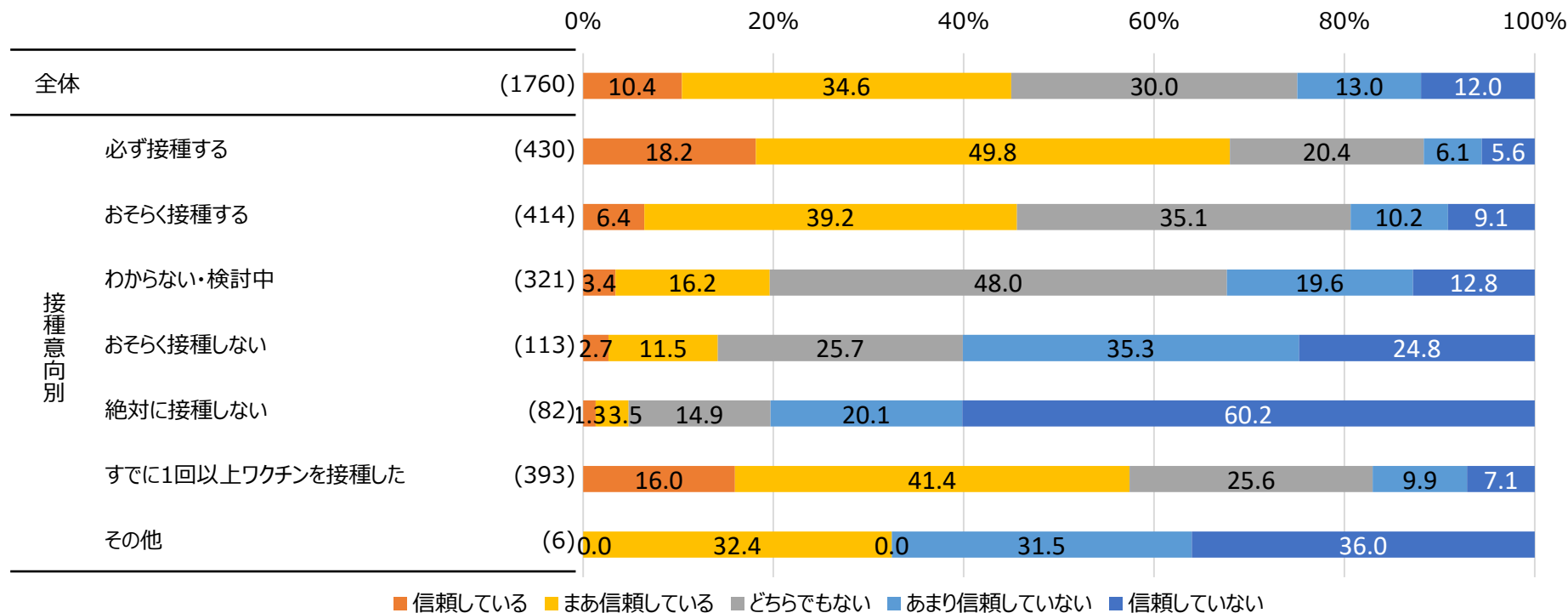
## Q15. あなたがワクチン接種をするための必要な条件をお選びください（複数回答）。

・ワクチンを接種しない又は検討中の人にとって、接種に必要な条件は「ワクチンの安全性が認識できたら」が56.9%、「ワクチンの副反応に大きな心配がなくなれば」が44.4%である。



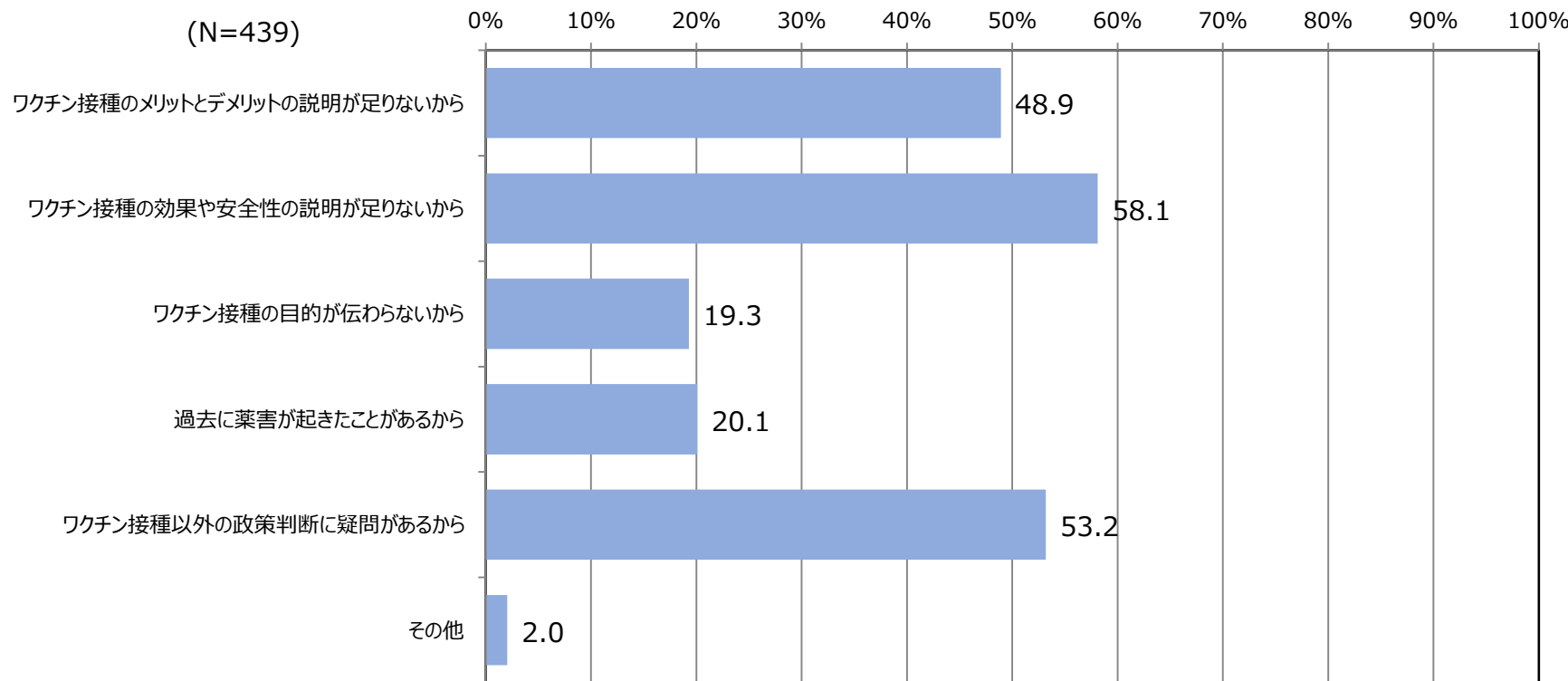
## Q16. あなたは、政府（国）のワクチン接種に関する推奨や判断を信頼していますか。

- ・「信頼している」が10.4%、「まあ信頼している」が34.6%である。
- ・「信頼していない」が12.0%、「あまり信頼していない」が13.0%である。
- ・接種しないと回答した人は、信頼していない傾向がある。



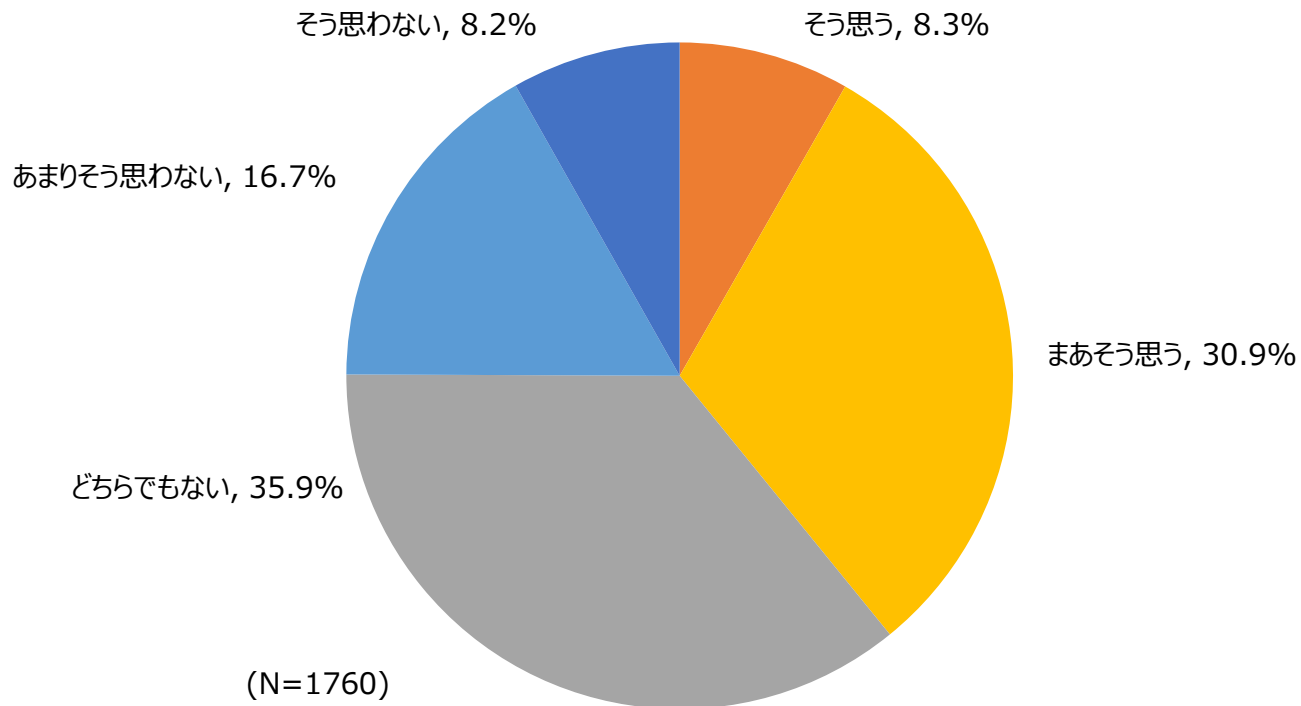
Q17. 政府（国）のワクチン接種に関する推奨や判断を、【前問Q16】と回答した主な理由をお選びください（複数回答）。

・政府を信頼しない理由について、「ワクチン接種の効果や安全性の説明が足りないから」が58.1%、次いで、「ワクチン接種以外の政策判断に疑問があるから」が53.2%である。



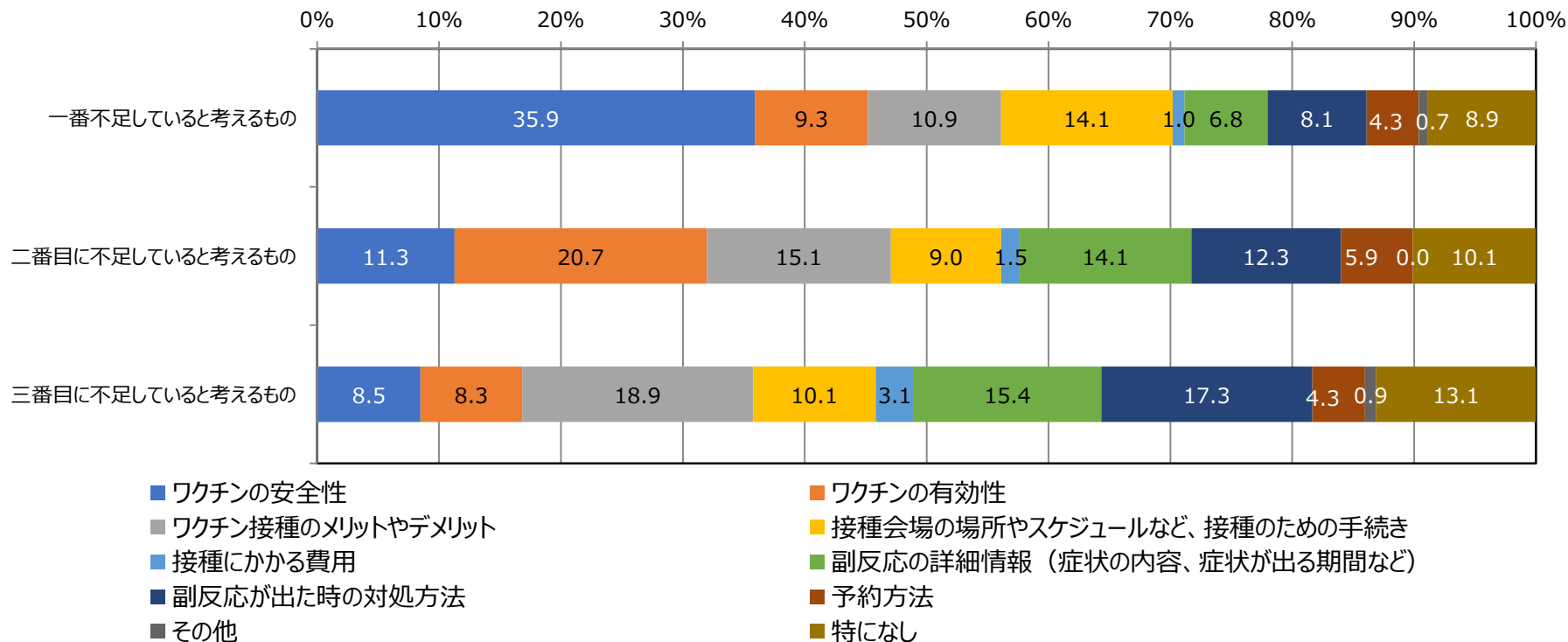
## Q18. あなたは、ワクチンについて信用性の高い情報を得ることができていると思いますか。

- ・「**そう思う**」が8.3%、「**まあそう思う**」が30.9%である。
- ・その一方で「**あまりそう思わない**」が16.7%、「**そう思わない**」が8.2%である。



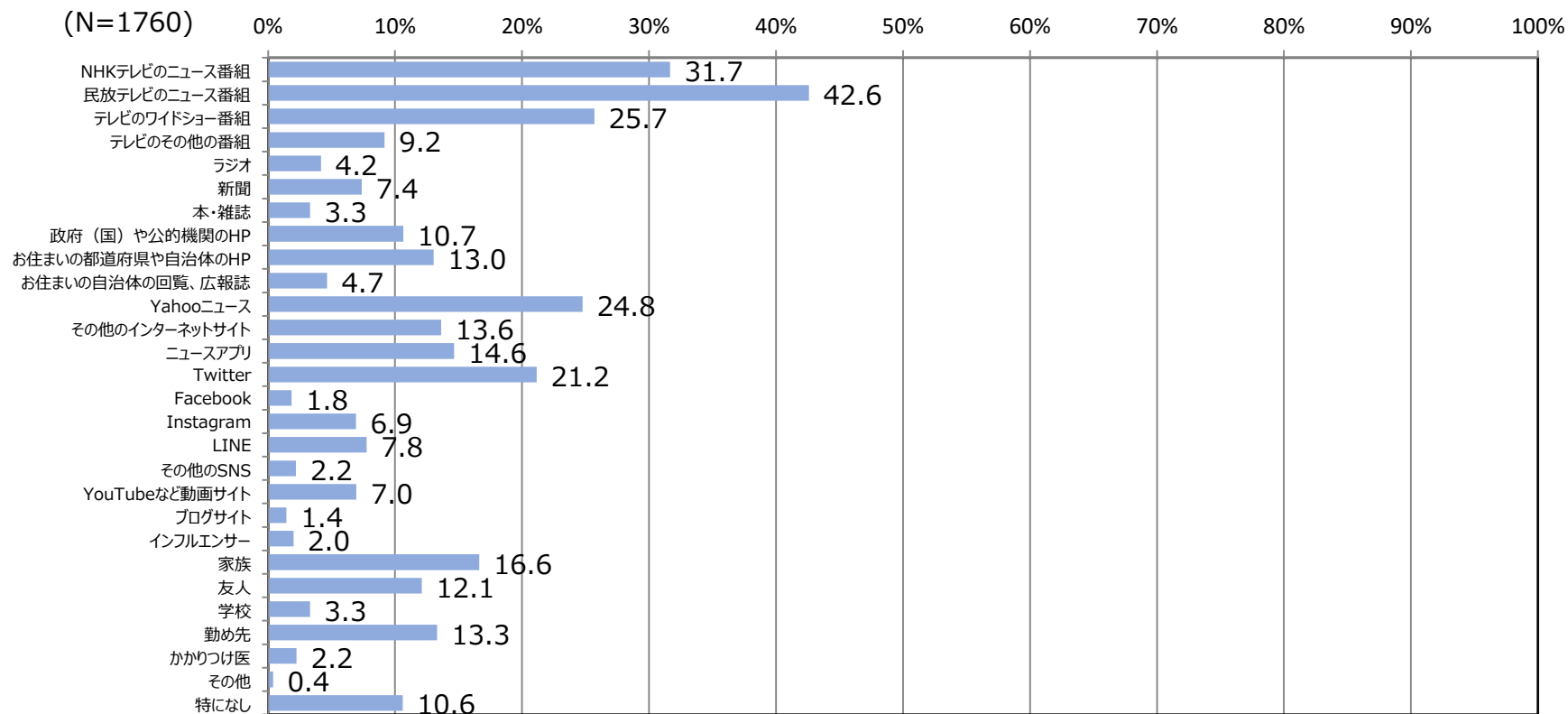
Q19. 接種を進めるために特にどのような情報が不足しているとお考えですか。「一番不足している」から「三番目に不足している」まで、あてはまるものをそれぞれお答えください。

・接種を進めるために不足している情報は、「ワクチンの安全性」や「ワクチンの有効性」が多く挙げられている。



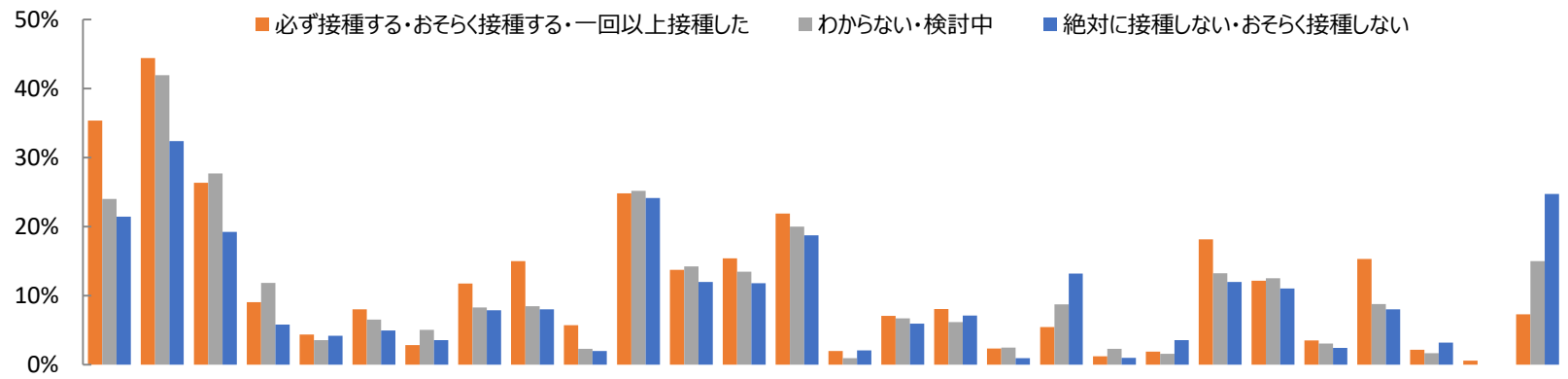
## Q20-1. ワクチン関連の主な情報源をお選びください（複数回答）。

・ワクチン関連の主な情報源は、テレビのニュース番組・ワイドショー番組、Yahooニュース、Twitterの割合が高い。



# Q20-2. ワクチン関連の主な情報源をお選びください（複数回答）。

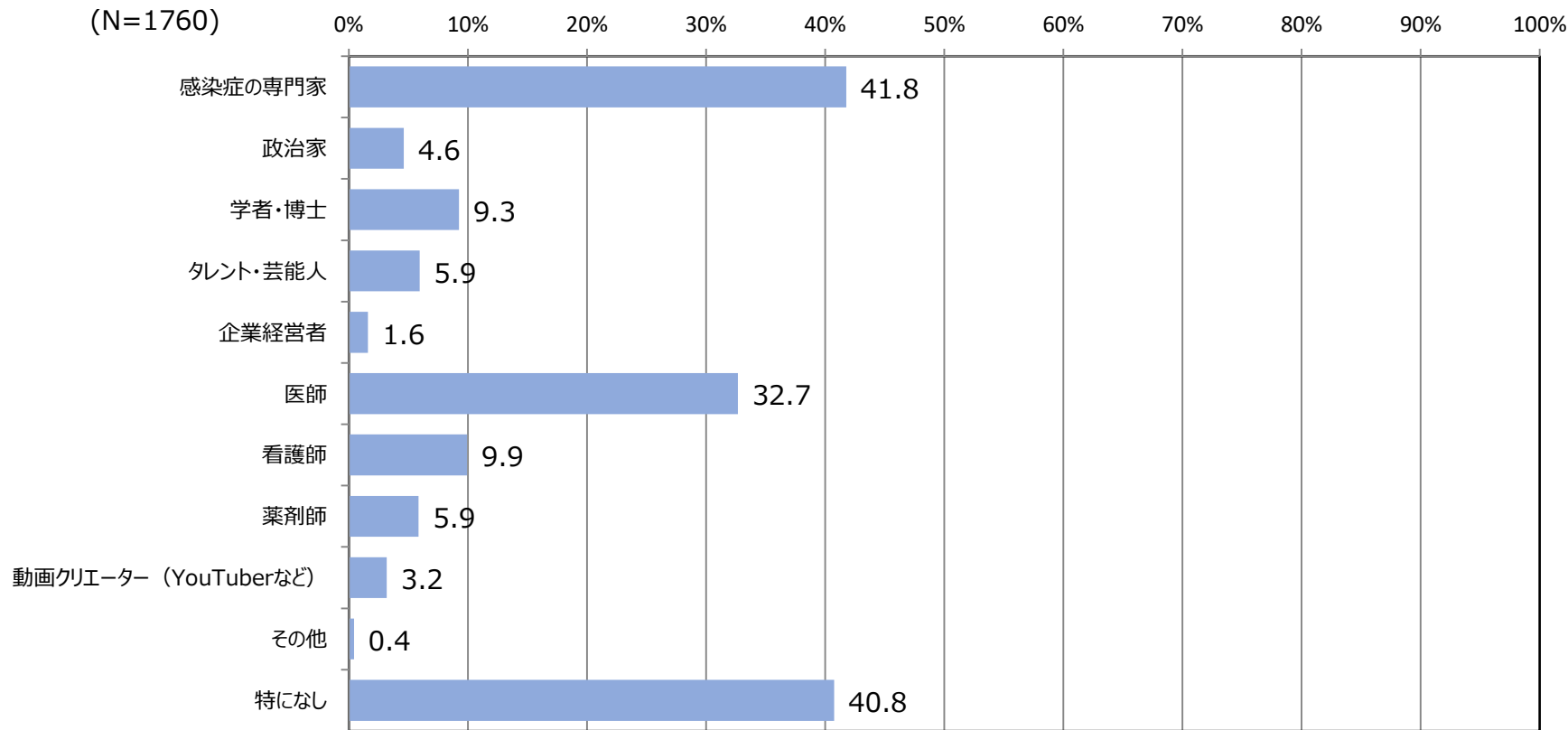
・接種の意向に関わらず、テレビのニュースやワイドショー番組を情報源としている割合は高い。  
 ・接種しない人は、YouTubeなど動画サイトを情報源としている割合が接種する人よりも高い。



		全体	NHK テレビ の ニュース 番組	民放 テレビ の ニュース 番組	テレビ のワ イド ショー 番組	テレビ のそ 他の 番組	ラジ オ	新聞	本・ 雑誌	政府 (国) や 公的 機関 のHP	お住 まい の都 道府 県や 自治 体の HP	お住 まい の自 治体 の回 覧、 広報 誌	Yah oo ニョ ース	そ 他の イン ター ネッ ト サイ ト	ニョ ース アプ リ	Twit ter	Face boo k	Inst agra m	LIN E	そ 他の SNS	You Tub eな ど 動 画 サイ ト	プロ グ サイ ト	イン フル エン サー	家 族	友 人	学 校	勤 め 先	か か り つ け 医	そ 他	特 に な し
全体		(1760)	31.7	42.6	25.7	9.2	4.2	7.4	3.3	10.7	13.0	4.7	24.8	13.6	14.6	21.2	1.8	6.9	7.8	2.2	7.0	1.4	2.0	16.6	12.1	3.3	13.3	2.2	0.4	10.6
接種 意向 別	必ず接種する おそらく接種する 一回以上接種した	(1237)	35.3	44.4	26.3	9.1	4.4	8.0	2.8	11.8	15.0	5.7	24.8	13.7	15.4	21.9	2.0	7.1	8.0	2.3	5.5	1.2	1.9	18.2	12.2	3.5	15.3	2.2	0.6	7.3
	わからない・検討中	(321)	24.0	41.9	27.7	11.8	3.5	6.5	5.0	8.3	8.5	2.3	25.2	14.2	13.5	20.0	1.0	6.7	6.2	2.5	8.7	2.3	1.6	13.2	12.5	3.1	8.8	1.6	-	15.0
	絶対に接種しない おそらく接種しない	(195)	21.4	32.4	19.2	5.8	4.2	4.9	3.5	7.9	8.0	2.0	24.2	12.0	11.8	18.7	2.1	5.9	7.1	1.0	13.2	1.0	3.5	12.0	11.0	2.4	8.0	3.2	-	24.7
	その他	(6)	17.3	34.8	-	-	-	-	-	-	18.7	-	18.7	16.1	16.1	15.1	18.7	18.7	18.7	51.4	-	18.7	17.3	-	33.8	18.7	-	18.7	18.7	-

Q21. ワクチン関連の情報源として信頼しているインフルエンサー・有名人・著名人の種類をお選びください  
(複数回答)。

・「感染症の専門家」が41.8%、「医師」が32.7%となっている一方、「特になし」は40.8%である。





# ワクチン接種に関する若年層へのオンライン調査（インタビュー）方法

■ 調査方法：オンライン調査（1対1でのインタビュー）

■ 調査期間：令和3年8月19日（木）・20日（金）・22日（日）

■ 調査対象：埼玉県内に在住する若年層（18歳から39歳までの者） 12名  
※ 接種に後ろ向きの者のみ

■ リクルート方法：調査会社による機縁リクルート

18歳～19歳	男性	2人	女性	2人
20歳～29歳	男性	2人	女性	2人
30歳～39歳	男性	2人	女性	2人

■ 主なインタビュー項目：

- ・被験者のバックグラウンド
- ・ワクチンを接種したくない・迷っている理由、接種条件
- ・信じられる情報
- ・欲しい情報、あると良い情報・施策

# 被験者のバックグラウンド

## 日常的に赴く勤務地、通学地

### <大学生>

- ・ 緊急事態宣言以降はほぼオンラインで、通学があっても週1～2、3回程度の人が多い。
- ・ 大学の立地は、6人中、東京都内が4人、千葉県内が2人。
- ・ 友人等と過ごす際は県内とする人が多く、都内に行かない人が多い。

### <社会人>

- ・ 職種によって通勤頻度は異なり、接客業や配送業、データを持ち出せない業務従事者では通勤している。
- ・ 職場は、5人中4人が東京都内にあり、埼玉県に職場がある人は1人である。
- ・ 主婦も含めて都心部に買い物や飲みに出かけることを控えている人が多い。

## 同居の家族

- ・ 大学生では、大学がテレワークが多いこともあり、6人中6人が両親や兄弟との同居。
- ・ 社会人では、6人中、一人暮らしが4人、家族との同居が2人。
- ・ 祖父母等の高齢者と同居している人はおらず、両親の世代で予約や接種が始まった状況にある。

## 身近な感染者

- ・ 身近に感染者がいない人が多く、7人/12人中が、いない、いても知人の知人や他の事業所等である。
- ・ 身近に感染者がいる人では、最も親しい人で夫（1人）、友人（3人）であり、自身が濃厚接触者になった経験のある人もいる。また職場でクラスターが2度起きている人（1人）もいた。
- ・ 身近に感染者がいる人でも、その感染者に重症化した人はおらず、後遺症が残った人もいない。

## コロナ感染の不安の度合い

- ・ 自身がコロナウイルスに感染する不安の度合いとしては、あまり不安視していない人が多く（6人/12人中）、その理由としては「身近に感染者がいないから」「感染症対策を行っているから」「身近な感染者が軽症だったから」「何度も会社でクラスターが発生しているから」等が上がっている。
- ・ 中程度に不安を感じている人（5人/12人）では、「デルタ株等変異株の出現」「感染者の急増」「友人が感染」「仕事で人との接触が多い」等の理由をあげている。
- ・ 不安が高い人は1人/12人中で、感染する不安が大きく、新型コロナウイルスが流行し始めた昨年の1月ごろから徹底した対策を続けているとしている。

## 周囲のワクチン接種状況

- ・ 親や兄弟姉妹が接種したとする人は多く7人/12人中。
- ・ 職場の同僚や大学の友人で半数程度接種が進んでいるとする人は5人。職場でクラスターを経験している人（1人）では自分以外の同僚は皆接種しているとする。
- ・ 接種した家族や友人の中で、接種後に高熱が出て大変だったという状況を見たり話に聞いて知っている人が多い。
- ・ 他方、両親や夫などの家族や友人が接種を希望していないとする人は3人、両親が接種を希望しているのに予約が取れないとする人が1人となっている。
- ・ 職場で職域接種をしているという声は聞かれず、大学生では2人が大学で職域接種を行っているとしている。

⇒ 身近な人に感染者がいない、感染しても軽症であることから自身が感染する不安をあまり感じていないとする人が多い。

⇒ 身近なワクチン接種者からワクチン接種後に高熱が出た話を聞いている人が多い。

# ワクチンを接種したくない・迷っている理由、接種条件

## ワクチンを接種をしたくない／検討中である理由

- 理由として、政府が信用ならない、過去の薬害と同様のことが起こるのではないという不安、基礎疾患のない若者が接種後に亡くなったという事実、注射が苦手、接種よりも免疫力を上げることのほうが重要、数日寝込むほどの副反応が出る、ワクチンを打っても感染する、日本製のワクチンが承認されるのを待つ、接種や副反応で会社を休みたくない、学生時代の貴重な時間を無駄にしたくない等、様々な意見があげられているが、本人の属性や社会的立場によって、最も重要視していると捉えられる理由には傾向が見られる。

### <女性>

- 現在認可されているワクチンは治験が十分でなく、臨床データの蓄積もないと感じているため、将来の副反応に対する不安が最も大きく、特にこれから経験する妊娠や出産に対する影響を不安視する傾向が見られる。

### <男性>

- 女性からの発言には見られなかったものとして、政府や専門家がワクチン接種を強く推奨していないことにワクチンへの不信感を感じるというものが、国や専門家の態度が接種行動に影響している可能性が示唆される。

### <男性 社会人>

- また男性は、社会人と大学生で傾向に差異が見られ、社会人の男性では、ワクチン接種や接種後の副反応で会社を休むことになるかもしれないということが最も大きな接種しない理由になっていることが伺える。
- 大学生であってもインターンを行う学年の学生では、社会人と同様に、職場への影響といった社会的責任から、接種する気になったケースが見られる。

### <大学生>

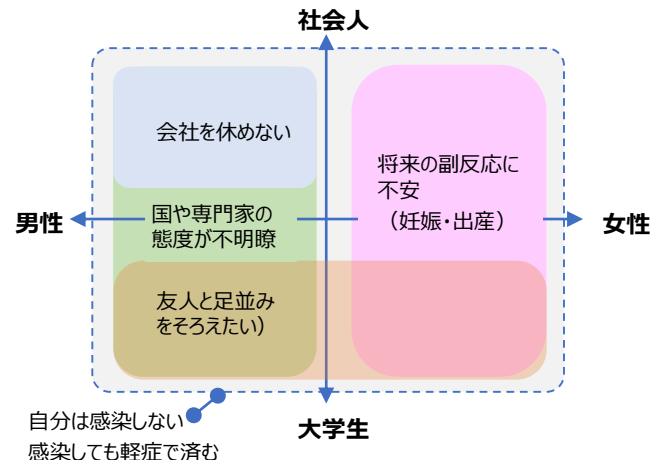
- 行動をともにしている友人の動向が自身の行動に大きな影響を与える傾向が見られ、「友人と足並みをそろえたい」という意識が強い。

- また接種直後の副反応や注射の痛さに不安はあっても、友人から体験談を聞くと安心したり、友人の間で接種した人が増えてくると自身も考えを改めて接種を検討するような傾向が見られる。

## <全体的に>

- 接種を希望しない根本的な理由として、身近に感染者がいなかったり感染しても軽症で済んでいることから、「自分は感染しない」「感染しても軽症で済む」という意識がみられる。

## ■ ワクチンを接種したくない・迷っている理由の属性別真因イメージ



⇒ベースには「自分は感染しない」「感染しても軽症」との意識があり、女性では「将来の副反応への不安（妊娠出産への影響）」、男性社会人では「接種や副反応で会社を休めない」、大学生では「友人と足並みをそろえたい」という理由がと接種意向を決定づけている可能性が示唆される。

# ワクチンを接種したくない・迷っている理由、接種条件

## ワクチン接種の条件

- ・ ワクチン接種の条件は、ワクチンを接種したくない理由・迷っている理由の裏返しであり、理由と同様に属性や社会的立場から整理できる。

### <男性>

- ・ 政府や専門家が接種を協力的に推奨していないことからワクチンを信用できないと考える人がいるため、「国から直接的で分かりやすい接種要請があれば接種する」「専門家から大々的に接種を推奨するという発表があれば接種する」といった意見が出されている。

### <女性>

- ・ 将来の副反応への不安から「臨床データの蓄積等によってワクチンの安全性が確認できたら」といった意見がみられる。
- ・ 女性には男性のような政府や専門家の意見で行動が決めるような傾向は見られず、情報を精査して自分で決めるという意識がみられる。

### <男性 社会人>

- ・ 社会人の男性では、ワクチン接種や接種後の副反応で会社を休むことへの抵抗感から、接種条件として「接種時や副反応がでてでも会社を休める環境があれば」「勤務先で職域接種があれば」といった意見がある。

### <大学生>

- ・ 行動をともにしている友人の動向が自身の行動に大きな影響を与えられ、大学生では「友人の接種が自分の接種のきっかけになる」といった意見が見られ、友人と相談して予約を入れたり接種を取りやめたりする傾向も見られる。

⇒ 女性よりも男性で、自分の意志というよりも周囲の環境が整えば接種するという傾向が見られる。

⇒ 大学生では、周囲の友人たちの接種が進めば接種する方向に考えが変わる可能性が示唆される。

- ・ また、周囲と足並みをそろえるために、接種証がないと飲食店に入れなかったり旅行に行けないなどの行動制限が設けられるようであれば、自分のせいで飲食店に入れなかったり旅行に行けなかったりする事態は避けたいため接種するという意見も大学生特有のものとしてみられた。

### <その他>

- ・ その他に、接種条件としてあげられたものとして「接種者への10万円の給付金支給」などのインセンティブ、外国製ワクチンへの不信感から「国産のワクチンが承認されたら」、大学低学年生からは「就職が近くなったら」などがある。

## 利用メディア

- 家族と同居している人では「TVのニュース番組」をよく見ている人が多い。
- また、ニュースとしては「Yahooニュース」をよく見る人が多く、他にもスマートホンからLINEニュースやスマートニュースを見ている人がいる。
- SNSは利用率が異なるものがあり、YouTubeやインスタグラムは利用するという声が多く聞かれたが、Twitterは利用する人と利用しない人が分かれる傾向が見られた。Twitterは、同じ大学生であっても利用する人と利用しない人がおり、社会人でもTwitterを利用する人がいて、年代や性別で分類できない状況にある。

## 信じられる情報

- 信じられる情報としては、主に以下の意見があげられている。
  - 発信者ではなく、情報の中身（客観的なデータ）を信じている（30代前半女性/会社員、20代前半女性/大学生、30代前半男性/会社員）
  - 知り合いの医療従事者や肉親など、面識ある身近な人からの情報は信じられる（30代前半女性/会社員、30代後半女性/専業主婦、10代後半女性/大学生、20代後半男性/会社員）
  - 実際に経験した身近な人の体験談は信じられる（20代前半女性/大学生、10代後半女性/大学生、30代前半男性/会社員）
  - SNSの投稿でも客観的なコメントが付いているものは信じられる（30代後半男性/会社員）

- 政府や自治体、TV番組・専門家については、意見が分かれる。

### <政府や自治体について>

信用できる

- 個人の考えを押し付ける専門家よりも国や自治体の情報のほうが偏りがなく信用できる（10代後半男性/大学生）
- 埼玉県から発信される情報は信用できる（20代後半女性/会社員、30代後半男性/会社員）

信用できない

- 政府や自治体の感覚は一般的な国民の感覚から外れていて見当違いな政策を立てるため信用できない（30代前半女性/会社員）
- 政府よりも専門家の意見のほうが信用できる（20代前半女性/大学生）

### <TV番組、TVに出演している専門家について>

信用できる

- TVのニュース番組は、SNSなどの情報より裏付けがあるため信用できる（20代前半男性/大学生、10代後半女性/大学生）
- 日本でもトップクラスの専門家でないとTVには出演できないため、TVに出演している専門家は信用できる（20代前半男性/大学生）

信用できない

- TVに出演している専門家はお金をもらって話しをしているため信用できない（30代後半女性/専業主婦）
- TVやSNSの情報はあまり信じない（10代後半男性/大学生）

⇒ 身近な人からの情報、経験者による体験談は、概ね誰からも信じられるとされる。

⇒ 行政機関やマスメディアは、信用する人としていない人で大きく分かれる。信じない人では、自分たちの都合の良いように情報操作が行われることを危惧していると捉えられる。信じる人では、行政機関やマスメディアは裏付けのない情報は流さない、個人の意見より偏りが無いといったことを評価している傾向がみられる。

## 経験者の話

- ワクチンを打ったのに罹患した人の話（30代前半女性/会社員）
- ワクチン接種後に妊娠した人の話（20代前半女性/大学生）
- 重症化した経験を短く伝えるSNS動画（20代前半男性/大学生）
- ワクチンを接種した人の生の声（20代後半女性/会社員）
- 権威のある専門家ではなく、現場の医療従事者のワクチン接種にまつわる生々しい話（30代後半男性/会社員）
- 同世代の感染者やワクチン接種の体験談は聞いてみたい（10代後半男性/大学生）

## 専門家の話

- 副反応に対する専門家の見解（20代後半女性/会社員）

## 偏りのない客観的なデータ、情報

- 第三者目線でのメリット・デメリット情報（30代前半女性/会社員、30代後半女性/専業主婦）
- 副反応に関する情報はデータも集まっている印象だが、将来の副反応に関する情報やデータがほしい（10代後半男性/大学生）

## 目標が見える具体的な情報、詳細な情報

- 具体的なデータ提示。ワクチン接種を行わない場合/行った場合の将来コスト比較等（30代前半女性/会社員）接種が何%進むとサッカー観戦にマスクが要らなくなる、外出に制限がなくなる等の情報。脅しではなく目標を持てるような情報。（10代後半男性/大学生）
- TVでは入手できないきめ細かな情報（20代後半女性/会社員）

## ポジティブな情報

- ネガティブな情報ばかり流れているため、ポジティブな情報（副反応が改善された例等）を流してほしい（30代前半男性/会社員）
- コロナに感染しない/感染しても重症化しにくい対策情報がほしい（手指消毒等以外。免疫力アップの方法等）（30代後半女性/専業主婦）

## 不特定多数ではなく自分に合った情報

- 自分の体質ににた人の体験談が検索できるサイト（アットコスメのようなサイト）（20代後半女性/会社員）

## ワクチン比較情報

- メーカーごとのワクチンの比較情報（副反応の種類、各副反応の発症率データ、ワクチン効果データ等）（10代後半女性/大学生、10代後半女性/大学生、30代後半男性/会社員）

## その他施策

- 接種する際、接種するワクチンの銘柄が選べるとよい（10代後半女性/大学生、30代前半男性/会社員）
- 個人的に、体質等をふまえてワクチン接種を相談できる窓口（チャットなど。予約制でも良い）（20代後半女性/会社員）
- 路上で飲んでいる若者など、接種しないと思われる人が接種に至る様子を追ったドキュメンタリー動画（30代後半男性/会社員）

埼玉県保健医療部

新型コロナウイルスワクチンチーム 若手広報グループ